

COVID-19パンデミック における大学間連携

慶應義塾大学医学部
医学教育統轄センター
門川俊明

医学教育の特殊性1

- 国内の医学部は82大学、1学年9000人強の学生
- 2/3程度の教員には診療のミッションがあり、多くの教員が少しずつ教育を担当している体制
- 共用試験、国際認証などの整備が進んでおり、各大学に、教育専門部署が存在

オンライン授業と言われても、同時にCOVID-19パンデミックへの対応で時間を取られる臨床系の教員は対応するのが難しい。

医学教育の特殊性2

- 臨床実習という病院を場にした教育が必要
- COVID-19パンデミックへの対応のために、学生を引き受けて病院内で臨床実習をおこなえない状況

3月から臨床実習が、ほとんどの大学でできなくなりました

COVID-19パンデミックでの医学教育の課題

- オンライン授業への対応
- 臨床実習の対応

慶應義塾大学医学部の対応

2月25日

学外臨床実習の中止

3月21日

オンライン授業への対応

マニュアルの整備、スタジオの設営

3月26日

臨床実習の開始延期

4月24日

臨床実習もオンライン化

注) 学生有志と作ったマニュアル

<http://mededu.jp/2020/04/04/オンライン授業の方法/>

**危機的状況では、教育体制を大きく
変更しなければいけないが、個々の
大学が判断するのは難しい。**

イニシアチブを取れる可能性があったのは

- 全国医学部長病院長会議
- 文部科学省高等教育局医学教育課
- 日本医学教育学会

ユニットの会メーリングリスト

- 全国の医学部の医学教育部門（ユニット）をつなぐツールとして、「ユニットの会」のメーリングリストが長年運用されており、今回の非常時においても、有効な連携ツールであった。
- メールのコミュニケーションツールとしての弱点もある。
 - （例）気軽に質問できない
 - （例）たくさんのメールが投稿されると、受け手にとっても負担が大きい

医学教育Slack

- 3月29日にユニットの会のメーリングリストで、医学教育Slackグループへの参加を呼びかけた。
- 医学教育Slackでは、オンライン授業とコロナ対策にテーマを絞り、医学教育関係者（教員、学生を含む）を招待し、情報の共有をおこなった。最終的に、175名の参加を得られた。



Slackとは

- Slackはメールに変わるチームコラボレーションツールであり、ビジネス向けチャットと考えるとわかりやすい。
- アンケートをリアルタイムで実施できることや、テーマごとにチャンネルを作って、議論を深められるという特徴がある。



4月初旬の時点でのアンケート

● 4月の臨床実習はおこないますか？

● 従来通りおこなう 16校

● 開始日を遅らせておこなう 14校

● おこなわない 10校

● 学外実習はおこないますか？

● 予定通りおこなう 3校

● 施設数など制限しておこなう 8校

● おこなわない 24校

新型コロナウイルス感染症への対応状況サイト

- Slackに流れる情報は、フロー型であり、最新情報が流れる一方、ストックされた情報が見つらいという欠点もある。
- 全国の医学部の対応状況を横並びに一覧できるようなサイトの構築を試みた。
- Google ドキュメントでスプレッドシートを作成し、各大学の教育ユニットの方に編集権限を付与して、随時、各大学の状況を書き込んでもらうことで、各大学の状況が一覧できるようにした。

	滋賀医科大学	京都大学	大阪大学	神戸大学	鳥取大学	島根大学	岡山大学	広島大学	山口大学	徳島大学
更新日	2020/4/10	2020/04/05		2020/4/8	2020/4/8	2020/4/28				2020/4/15
講義	4/6開始予定であったが2週間程度延期。4/20から準備が整った講義からオンライン授業を始める。オンデマンド配信を中心とする。	4/6医学部専門科目開始。すべてZoomリアルタイム又はLMSストリーミングオンデマンド。全学共通科目は5月開講		4月6日より、基礎科目・臨床科目ともにZoomリアルタイム+録画又はLMSストリーミングオンデマンド（PPTに録音添付）。	前期授業は全て2週間延期。1年生は4/17～、その他の学年は4/15～開始。感染者がまだいないことから、授業は講義室を大きなサイズに変更し、60%以下の占拠率として、入り口に消毒液設置、マスク着用および3蜜に配慮して行う予定。	感染拡大に伴い、一時的に授業可能と判断された学年も、現状は、医学科看護学科ともに、5/11～のオンライン配信に切り替え。		4月6日より医学科専門科目開講。基礎科目、臨床科目ともにMicrosoft Teamsを用いて、Live配信およびLive講義の録画をオンデマンドで行う。対面講義はGW明けからという全学の方針により、1年生の講義は延期されている。	4月6日より開始予定だったが、4月20日からに延期としていた。更にここに来て県内で感染者が増加していることから、通常講義は行わず、原則遠隔講義（Zoomリアルタイム）で行う予定。	4月6日開始予定だったが延期し、4月15日から遠隔授業、5月11日から対面授業で行う
オンライン授業	WebClass（オンデマンド配信）もしくはZoom（ライブ配信）で行う。後者については学内に仮設スタジオを3部屋設ける。	Zoomリアルタイム+録画又はLMSストリーミングオンデマンド（PPTからmp4エクスポート）。Web-EXは予備。無学生講義のビデオカメラ録画は採用しなかった。	原則リアルタイム配信でおこなう。教員には、PowerPointの録画機能を使った方法を案内するとともに、もともと講義するはずであった教室にあれば、通常の講義と同じように講義して収録できる体制にしている。	今後、音声解説付きPPTをGSuite、manabaで視聴、Hangouts MeetあるいはZoomでオンデマンド配信を行う予定である。	Zoom、WebEx、Teamsを組み合わせている。オンライン配信用リンクをMoodle上で管理するなど、Moodleを情報発信のハブとして使用。Moodleを利用できるように、学生を徹底指導。		原則、リアルタイムライブ配信を学内スタジオよりおこなう。学外講師は広島市外の講師には資料配布またはPowerPointの音声解説付きをお願いした。自宅にネット環境がない学生は元々受講する講義室に登録制で登校し視聴できる。	原則、リアルタイム配信で行う。Zoomリアルタイム配信の部屋と設備を準備し、教員には自身の講義の時間にデータを持参してもらおう。	Teamsによる同時およびストリーミング配信あるいはppt音声入力ファイル（MP4）の異時配信	
試験	未定	未定		未定	未定	未定		未定	未定	現時点では5月11日以降に通常通り実施予定
基礎系の実習	解剖実習は感染予防対策のもとでの実施を検討していたが延期となった。	解剖実習は1か月開始を延期、病理学や他の実習は未定		解剖実習は4月後半以降に延期。やむなく中止も覚悟。Eコンテンツは、Visible body等無料教材も活用予定。病理実習は、病理学会の教育用ス	感染対策に十分配慮し、解剖実習は実施予定。コミュニケーション授業はトライアル的にオンライ	都市部よりの感染拡大が見込まれ、都市部よりもピークが後に来ると予想して、解剖学実習を冬に延期。空いた時間を各種		解剖学実習はアプリを使ったバーチャル解剖学実習を予定通りの日程で開始する。従来通りの実習は時期をみて、内容期間を変更して行う予定。	バーチャルでの実習が可能なのはオンラインで実施するが、解剖実習など実地が必要なものについては延期し、随時スケ	予定を組み替えて5月11日以降に実施予定

<http://mededu.jp/2020/04/04/>医学部の新型コロナウイルス感染症への対応/

医学教育サイバーシンポジウム 「COVID-19時代」の医学教育

新型コロナウイルス感染症の影響により、医学教育も大幅な転換を迫られています。本シンポジウムは、さまざまな教育現場での対応状況について共有することで、「COVID-19時代」の医学教育のあり方を模索することを目指します。今後、2週に一度、オンラインでの開催を予定しています。フリーディスカッションを除く、演題は後日、動画アーカイブとして提供します。

第1回：これからの臨床実習

2020年5月30日(土)14~16時

プログラム

司会 門川 俊明 (慶應義塾大学)

1. 「オンライン臨床実習を実施する際のポイント」

錦織 宏 (名古屋大学)

20分、質疑応答10分、後日録画アーカイブを提供します

2 「Moodleを用いた臨床実習の支援」

浅田 義和 (自治医科大学)

10分、質疑応答5分、後日録画アーカイブを提供します

3. 「臨床実習、どこまでできる？どう終わらせる？」 清水 郁夫 (信州大学)

10分、質疑応答5分、後日録画アーカイブを提供します

4. 「LMSとZoom、携帯電話で実践するオンデマンド消化器内科臨床実習」

三原 弘 (富山大学)

10分、質疑応答5分、後日録画アーカイブを提供します

5. 「SNSを活用した臨床実習」

山根 裕介 (長崎大学)

10分、質疑応答5分

6. フリーディスカッション30分

cybersymposium.jp

まとめ

- COVID-19パンデミックに対して、各大学だけで悩むのではなく、インターネットツールを介して共有することで、各大学の負担を減らし、よりよい判断をする手助けになる。
- 大きな試練ではあるが、なかなか踏み出せなかったオンラインを介した教育の仕組みが一気に整備された。今後、新しい医学教育が展開できると希望をもっている。

Coming back better